【エントリー情報】
自治体名：
学校名（自治体でエントリーされる場合は記載不要です）：茨木市立　山手台小学校
ご記入者：松波　健太郎

【設問】
① 貴自治体・貴校で目指している目標（ビジョン）・目標に至った背景・想いを教えてください。（1,500 文字以内）※可能な限り自治体や学校全体の目標をご記入ください。

学校目標 「一日一回　タブレットをさわる」
それを実現するための個人目標 「漢字の学習から推し進める業務改善」

ICT 端末が導入され、その活用方法を模索してきたが、学年・クラスでどうしても差が出てしまい、全国の学校で言われているような問題が自校でも起こっていました。情報部会（GIGA・ICT）の担当役として今年度から公務分掌を任され、どうすれば学校全体で ICT の活用が進むのかと悩む日々が続きました。数年前からタブレットが導入されているのにもかかわらず、進まない活用。それならば大きな目標を掲げるのではなく、その有効活用をめざし「一日一回はタブレットをさわる機会をつくろう！」と、まずは全クラスができそうな目標をたてることからはじめていきました。
それともう一つ、やはり ICT を活用するメリットを示すことで、全教員が納得してタブレットを活用することこそに意義があると考え、なぜ ICT 機器を使うのかという単純な質問に対して、「子どもだけでなく、教員側にもメリットがたくさんあるんだ」ということを肌で実感することが一番だと考えた。今まで通りという固定概念から脱却し、意識改善による業務改善をしようと、自分の中でもう一つの目標として掲げてきました。その具体的な取り組みとして、漢字学習や日々の丸つけに追われて本来の業務を圧迫している教員の現状を打破するには ICT を活用した取り組みが必要だと感じました。

② 目標（ビジョン）に向けた具体的な個人のお取り組み・学校全体でのお取り組み、学校の枠を超えて市や他校へ広がったお取り組みや、その中で発生した課題や苦労を教えてください。（1,500 文字以内）
「一日一回　タブレットをさわる」を目標に、学校全体での ICT の活用が始まりましたが、慣れている先生たちはどんどん活用をすすめていけるが、まだまだ ICT 機器になれていない先生たちからは、「どこで活用すればいいかわからない」「問題が起きたときに対応できない」など、多くの言葉が聞こえてきました。
朝学習の時間にタイピングをする。ミライシードのドリルパークを使い漢字の復習や計算の復習をする。オクリンクを使って、写真をとったり、ふりかえりを書いたりする、など簡単に取り組めることを学校全体で取り組んでいこうと決めました。
それと同時に ICT を使った業務改善の一つとして、担任をしている 2 年生では、漢字学習の進め方を

一から見直し、どうすればコスパ・タイパよく限られた時間で漢字の学習に取り組んでいけるかをテーマに学年団で相談を重ねてきました。
・子どもたちが楽しんで、自分たちから学習を進めていくにはどうすればよいか。
・漢字ドリル、漢字ノート、新出漢字ノートなど漢字に関する丸つけが多すぎて、業務を圧迫していること。
・従来通りの漢字学習の進め方から脱却し、今までの学習理解と同等、もしくはそれ以上の効果をあげるためにはどのような方法があるのか。

それら一つひとつをクリアしていくために、ミライシード・ドリルパークを活用していこうと学年団で決定しました。ドリルパークには漢字一つひとつを何度も書く練習ができたり、書き順を正しく学べたり、その漢字をつかった例文を学べたりと、今までそれらを担っていた漢字ノートや新出漢字ノートに頼らなくても、新しい漢字を覚えることができたのである。また学習理解を確認するために、小テストをドリルパークで実施することですぐに丸がつけられ子どもたちにフィードバックも瞬時にできるドリルパークは、大いに漢字の学習に役に立った。

漢字学習に ICT（ドリルパーク・ミライシード）を活用するメリットとしてあげられる点は
１、漢字ノート、新出漢字ノートの廃止、または丸つけをする時間が減り、大きな業務改善につながったこと。
２、書き順の確認や繰り返しの練習など、ノートではわからなかったことやできなかったことが新たにできるようになったこと。
３、子どもたちの進捗状況がデータとしてみることができ、一人ひとりに合わせた指導ができるようになったこと。
４、習った漢字だけでなく、前学年の復習ができたり、自分で習っていない漢字を進めることができたりと、子ども自身で学習をすすめていけるようになったこと。
５、漢字ノートや新出漢字ノートなど、使用頻度が減り、ノート代など保護者の直接的な負担が減ったこと。
ほかにも、様々なメリットを感じることができた。

しかし、これらの取り組みを進めるにあたって、「今まで誰もやってこなかったことに、本当に効果があるのか」「ICT ばかりに頼っていると、筆圧が下がり、鉛筆できれいにノートが書けない。」「家庭に持ち帰ることでタブレットや ICT 機器などが壊れてしまう心配があるのではないか。」など多くの心配や不安、疑問点などたくさんの教員から出てきたのも事実です。それらの不安や疑問をしっかりと時間をかけて検証し、一つひとつ解決していくことで、少しずつ ICT を活用していこうという空気感が学校全体に広がってきました。

③ (3-1) ICT を活用することで、先生のご指導や働き方、児童・生徒の学び方や学習への態度、学習成果などにどのような変化があったか、またこれらの変化をどのように評価されているか教えて

ください。（2,000 文字以内）

ICT（タブレット等）を活用することで得られたこと

１、指導や働き方の変化

漢字の学習に ICT を取り入れることで、今まで漢字学習にかけていた時間が大幅に削減され、新たな指導方法で漢字を指導することができた。具体的には、今までは写経のようになんども唱えさせ書かせるといった時間をかけて行っていた指導から、子どもたち自身で進めていくという指導方法に変化していった。終わった児童から漢字ノートや漢字ドリルなどの丸つけのために並ばせて、一人ひとり丸つけを行っていく。そのようなことから 180 度転換し、漢字の学習を進めている子どもたちの横に行き、「ここはこしたらいいよ。」「この漢字の書き方がいいね」などと、丸つけに必死になって子どもたちをみることができずノートばかりみていた自分から、学習をしている子どもたちに直接関わっていける指導へと変化していったことがこの取り組みを進めていくうえで大きな変化だったと言える。

また働き方の変化として、授業での丸つけや宿題の丸つけで一日の大半の時間を使っていた業務から大きく解放され、25 分休みには丸つけではなく、子どもたちと一緒に運動場へ行ったり、図書室へ本を借りに行ったり、子どもたちの話を手をとめてゆっくり聞くことができたり。ICT を活用することで、業務の改善につながり、そしてそのおかげで本来私たち教師の仕事である「子どもたちとの関わり」に大きな時間をさくことができたのである。今の教師はよく、余裕がないと言われるが、確かに現場で担任をしている教員に余裕はまったくといっていいほどない。しかし、その時間を作ることができたのはほかならぬ ICT（タブレット・ミライシード・ドリルパーク）を活用できたからと言いきれる。

２、児童の学び方や学習への態度、学習成果などの変化

ICT の活用は子どもたちの学び方や学習への態度、意欲も変えていった。4 月の段階では、2 年生になったばかりでタブレットの使い方もまだまだわからない状態であり、はじめは漢字ノートなどを使い、従来通りの指導を進めながら、少しずつタブレットでの学習にも慣れさせていった。その時期はまだノートをたくさん書かせていたが、子どもたちからは「たくさん書いて手が痛い。」「直しがあるのに消しゴムできれいに消せない。」「どこが間違っているかわからない」と、よくも悪くも 2 年生らしい言葉がたくさん出てきた。一人ひとり丸つけをし、そのたびに指導していくのも時間がかかり、子どもたちもそれを待っている間は暇だなぁという思いで待っていたに違いないと今更ながら感じている。

タブレットに慣れてくると大きな変化が表れてきた。まずは、漢字ドリルで新しい漢字を読んだあと、今までは漢字ノートに書き写していたが、すぐにタブレットでドリルパークを開き、習った漢字の練習をする。終わった児童は、ドリルパーク内にある、読みドリル・書きドリルの学習へと進んでいく。それも時間内に終わった児童は、別の漢字を復習したり、まだ習っていない漢字に取り組んだりする児童も出始めた。タブレット学習に慣れ、2 学期の終わりには子どもたちから聞こえてくる言葉は

「先生、今日いっぱい漢字書けたで。」「書き順間違えたけど、何回も書き直してたら覚えたで。」「もう 2 年生の漢字全部終わって、3 年生の漢字まで進んだよ」「書きドリルで 2 回目で全部合ってたよ」等々、1 学期に出てきた言葉とは大きく違うことが感じ取れた。また日々の学習の進度を教員の方で把握できることで、一人ひとりに合った声かけや課題の配信など今までにはできなかったことがで

きるようになってきた。それ以上に、子どもたち自身が漢字の学習に対して、自分から進めていこうという学びへの向かい方に変化が起こってきた。

　またタブレットを活用することで、従来のやり方と比べて効果があるのか、という疑問に対してはしっかりデータを取りながら取り組んできた。昨年度、今年度、特に「漢字のまとめテスト」の得点の推移をみていると今までと同じ、もしくはそれ以上の結果となっていることがわかった。（次項に詳しく記入）結果に表れているからこそ、この取り組みを学年だけでなく学校全体にも広げていこうと、自身の取り組みの実践や学習成果をもとに推し進めている最中である。またこの取り組みを、ほかの学校の先生たちとも共有し、様々な学校のよい実践を取り入れてさらなるパワーアップにつなげていくことも今後の目標ともなっている。業務改善につながるだけでなく、子どもたちの学習意欲の変化、子どもたちとの関わりの時間の増加など、大きな成果を ICT によって得られたことをもっともっと広く発信していければと思い、今回のミライシードアワードに応募しています。そしていつの日か、どのクラスでも ICT が当たり前のように使われている学校を教員だけでなく子どもたちとも一緒になって目指していきたい。

(3-２)ICT 活用による成果について、定量的なデータでお示し可能なデータがあれば、教えてください。（1,500 文字以内文字以内）※本設問のみ任意回答

ICT 活用（ミライシード・ドリルパーク）による学習成果の推移

※今年度（2 年生　３１名）「漢字まとめテスト」
1 学期　１回目のテスト　平均点　８６点（主に漢字ドリル・漢字ノートを活用）
　　２回目のテスト　平均点　８９点
　　（漢字ドリル・漢字ノートの学習とタブレットを活用した学習がおおよそ半々）

2 学期　１回目のテスト　平均点　９３点（主にタブレットを活用）
　　２回目のテスト　平均点　９４点（主にタブレットを活用）

3 学期　　現在取り組み中

※取り組みを始めた昨年度（4 年生　３３名）
1 学期　　平均 88 点　　2 学期　　平均 92 点　　3 学期　平均点　92 点

④　お取り組みの中でのミライシードの活用画面・活用機能お取り組みの中でミライシードが役立った場面・活用頂いたアプリ/機能を教えてください。

※活用エピソードが複数ございましたら、文字数制限内でご記入ください。1 つのエピソードに絞る必要はございません。（2,000 文字以内）

◆漢字の学習 「ドリルパーク　書きドリル・読みドリル」

漢字の取り組み済みの学習には、赤く表示が変わることで、子どもたちがどこまで取り組んだのかがひと目でわかる機能がとても役に立ちました。〇月〇日までに、ここまで全部真っ赤にしようねと言うと、競うように「僕はここまでいったよ」という声だけでなく、「〇〇さんがたくさん赤くなっていたから、私もたくさん赤くなるように一緒に勉強したよ」と、ともに学ぶ場面が増えてきました。

◆宿題や授業での 「ドリルパーク　課題配信機能」

今まで宿題で漢字ノートに漢字ドリルの書き写しをしてきたが、次の日には大量の丸つけ・お直しと膨大な時間をほぼ毎日使っていた。それらを漢字ノートの代わりに宿題で「課題配信」にすることで、丸つけはタブレットが瞬時に行い、その結果を教員器で確認し、間違いやすい問題を追加の課題配信をするといった、効率よく学習理解につなげることができた。何より宿題を出した次の日の丸つけ業務が減ったことで、子どもたちと関わり合う時間が増えたことがこの機能を使って一番うれしかった。

◆ドリルパークでの「コメント配信」

「先生のコメントめっちゃおもしろかったで」「いつも宿題前に見てやる気がでるよ」と、宿題でドリルパークの課題配信をした際に一緒にコメント配信機能を使って、「今日は学校でこんなことがあったね。宿題もがんばろうね！」と送ることで、子どもたちがそのコメントを楽しみにしてタブレットを家庭でも活用することや、保護者からも「いつも先生からのコメントがないか、うちの子が楽しそうにタブレットを見せてくれるんです。」と保護者にもタブレットを活用した取り組みに理解を得られるきっかけにもなった。またなかなか学校に来ることが難しい児童にも個別にコメントを送ることで、安心感や居場所づくりにも一役買っていると言える。

◆オクリンク・ムーブノートを使った書写大会

タブレット学習では、字を丁寧に書くことができないという意見があり、それなら ICT を使ってどうにかできないかといろんな先生たちと相談する中で、だったらタブレットを使った書写大会をしたらどうかとアイデアが出てきました。低学年なら漢字を書くために必要なマス目が入ったカードを配信し、お手本と同じようにタッチペンを使って 3 枚書く。その中から一つだけを提出し、クラスみんなで見合うという取り組みである。高学年なら 1 枚のカードを、習字のように 4 文字の配置を考え 3 枚書く、その中から 1 枚を提出してみんなで見合う。マス目を意識して書く、という意識を持つことで漢字ノートに書くときも同じように意識して書くことができていた。丁寧に書くということもタブレットを活用して意識することができるのだとこの取り組みを通じて発見した。